

目的 昭和59年度に、東京都内の中学校115校、高等学校64校の協力を得て、衣生活一般および学校制服に関するアンケート調査を行い、5562人より回答を得た。この単純集計結果は、第36回年次大会において報告した。今回は、これらの回答の中から、男女別、地域別など、各種属性を考慮して抽出した596人の回答をもとに、これら各種属性間の独立性と、衣生活一般における意識と学校制服に対する考えとの関連性を考察する。

方法 高校生と中学生、男子と女子、区部と市部、私立校と公立校、制服指定校と無指定校など、各種の属性区分対について、属性相関係数($\sqrt{\chi^2/n}$)を求める。また、アンケートの各項目相互間の順位相関係数を求める。

結果 種々の属性の中で最も差の大きい対は、男子・女子で、「ファッションに興味がある」「他人の服装が気になる」「服は十分考えて買う」「毎日の服装を決めるのに迷いやすい」「制服は経済的である」などの項目に対し、女子の方が評点が高い。また、男子校生・女子校生の差は共学校の男子・女子の場合より大きく、「明るい色が好き」「制服は明るい色の方がよい」「私服でも学生らしくなれる」などの項目に対し、男子校生は共学校の男子より高い評点を与えている。制服無指定校生は指定校生より、「自分の学校を誇りに思う」「私服でも学生らしくなれる」などに評点が高く、「制服は非行防止になる」「制服は衛生的である」などには低い評点を与えている。地域別では、「制服は冬は寒い」には島嶼部より区部、市部の生徒の評点が高く、逆に「制服は夏は暑い」には島嶼部の生徒の評点が高い。市部と区部の生徒は類似した傾向を示している。